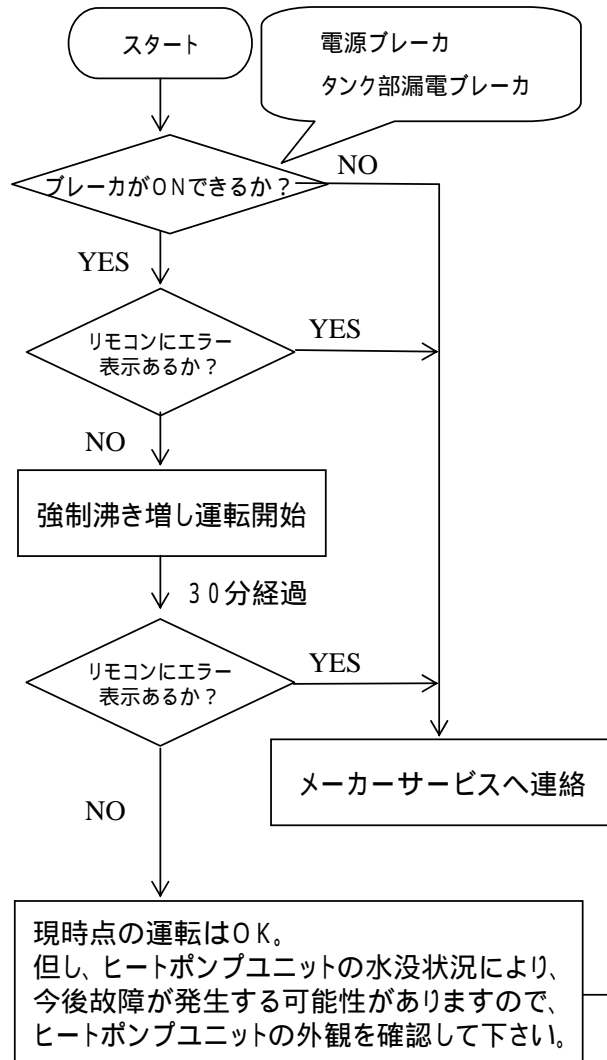


水害時のヒートポンプユニット処置要領(暫定)

H16.10.21 (株)コロナ



1. 水位がヒートポンプ脚より50mmまでの場合 問題なし
2. 水位がヒートポンプ脚より50mm以上の場合 メーカーサービスへ連絡

<ご参考>ヒートポンプユニット外観から確認できた水没状況による点検必要箇所

1. ヒートポンプ脚より50mmまで水位があがった場合
ウォーターポンプ交換
凍結防止ヒータ交換(ヒータ付の場合)
ドレンパンヒータ点検(寒冷地向けの場合)、清掃
断熱材点検、清掃、交換(中仕切り板、コンプレッサ、水熱交換器)
以上の後、絶縁抵抗確認を実施
2. 50mm~100mm程度まで
上記に加え、空気熱交換器のフィン詰まりの確認、清掃を実施
3. 100mm以上~完全水没
ヒートポンプユニット本体交換
4. その他留意すべき事項
 - ・泥水、塩水等での水害の場合には臭い、錆の早期発生等の不具合が考えられますので洗浄が必要となります
 - ・風等の影響により更に上部まで水の影響が考えられますので、電気部品関係を中心に内部点検が必要となります